

草津市立矢倉小学校通信 平成30年6月1日 NO.4



やぐら通信

～ひとみキラキラ豊かな心と体の矢倉っ子～

あいさつ運動

今、学校では「あいさつ」が、ちょっとした盛り上がりを見せている。

毎朝の分団登校。校門でリーダー委員会の子らが「おはようございます」と当番であいさつをし、その声かけにどれくらいの子が「おはようございます」と返してくるか、人数を数えている。そして、その日のあいさつをした人数が、職員室前の廊下の掲示板に発表される。

先生方も、この動きをとらえ、担任している学級の子どもたちに働きかけてくださっている。子どもたちの中には、「あのな、ぼくらの学級は、あいさつした人の数を数えてるねん。」「わたしのところは、自分からあいさつしないと数えたらあかんねん。」などと、立ち止まって、あいさつのやくそくごとの説明をしてくれる子がいるくらいだ。

そんな中、リーダー委員として昨日もあいさつをしていた子が、こんなことをつぶやいた。

「きのうは142人、今日は110人。マイナスかあ…。でも、あいさつをずっと続けたい。それと、お昼の放送でみんなにもっとあいさつしていこうって言いたい。あいさつってなんか気持ちいいし。」

確かにあいさつは、「やりなさい」と誰かに言われて身につくものではない。相手があってこそできるものであり、相手から心を返してもらい、自分もその心を受けとめられるからこそ続けられる、そのようなものだ。なかまと共に取り組むよさはここにある。きっかけは、あいさつした人の数を競い合うことであったり、ゲームのように楽しむことであったりしてもいいだろう。大切なことは、いかに続けられるかであり、続けていく中で、あいさつそのもののよさ、ねうちについて気付いたり、自分らしいスタイルが身についたりすることではないだろうか。

学区の社会福祉協議会の総会に出席させて頂いた。計画の中に、地域を挙げての活動の一つとして「あいさつ・声かけ運動」が掲げられていた。子どもたちの「あいさつ運動」が、矢倉のまちの願いとつながっているなあ、地域のみなさんに支えていただいているなあと、お礼を申し上げたい。

校長 大林 道範